



令和5年度（2023.4～2024.3）

日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト
（NipCA プロジェクト）

Nippon-Foundation Central Asia-Japan Human Resource
Development Project

事業報告書（概要）

筑波大学

事業 ID: 2023020195

令和5年度（2023.4～2024.3） 「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト（NipCA）」 活動概要

筑波大学は、大学の世界展開力強化事業「ロシア語圏諸国を対象とした産業界で活躍できるマルチリンガル人材育成プログラム」（2014.3～2019.3）の教育レガシーの一部を継承・発展させた新しいグローバル人材育成事業として、公益財団法人日本財団から教育・研究助成を受け、2019年1月から「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト」（以下、NipCA プロジェクト）を開始し、2023年で5年目を迎えました。

本事業は、日本財団、日本・中央アジア友好財団（JACAFA）、筑波大学の三者が協力・連携し、中央アジア（アゼルバイジャンを含む6カ国）地域の「持続可能な開発目標 SDGs」の達成と当該地域社会の課題解決に貢献できる人材を育成することを目的としております。プロジェクト5年目となる2023年度は、本学NipCAプロジェクト運営委員会（委員長：加藤光保 副学長・理事【教育担当】、副委員長：池田潤 副学長・理事【国際担当】、副委員長：原晃 副学長・理事【医療担当】、附属病院長）で承認を受けた事業計画に基づき、大学執行部の助言と指導の下、実務責任者1名（教授）、実務副責任者2名（教授）、プロジェクト専従教員1名（准教授）、コーディネーター1名（University International Administrator）、研究員4名、事務スタッフ3名で実務・運営を行っています。

活動内容としては、①日本財団、JACAFA、筑波大同窓生ネットワーク連携活動、②中央アジア・日本の双方向の教育・研究交流、③中央アジアに関係する国内外のネットワーク強化や公開シンポジウム等による教育・研究成果の社会への還元を目指した基盤構築活動の3つをプロジェクトの柱として展開しています。

具体的には、筑波大学大学院人文社会科学研究群国際公共政策学位プログラム（博士前期課程）の正規学生として、中央アジア及びアゼルバイジャン出身の優秀な留学生を受け入れ、NipCAプロジェクトのフェロースhip生として全員に対し、渡航費、学費、寮費、生活費を支給し、安心して学位取得のための勉学に打ち込める環境を用意しています。2021年3月には第1期NipCAフェロー生6名（1名は病気により在学延長し、9月修了）、2022年10月には第2期NipCAフェロー生7名（新型コロナウイルス感染症の影響による来日の大幅な遅れを考慮し、特別に半年間の修学期間を延長）、2023年9月には第3期NipCAフェロー生6名、2024年3月には第4期NipCAフェロー生8名が学位を取得し、将来、中央アジア諸国・地域の各界のリーダーとして社会課題解決に資する有為の人材になることが期待されています。これまで受け入れてきたNipCAフェローは国際公共政策学位プログラムで学び、学位（修士／国際公共政策）を取得してきましたが、第4期NipCAフェロー生8名のうちの1名であるアイザダ・バディエワさんは、本学大学院人間総合科学研究群の公衆衛生学学位プログラム（博士前期課程）で学び、NipCAフェローとして初めて学位（修士／公衆衛生学）を取得しました。さらに、アイザダさんの「Association

between hospital admissions due to acute myocardial infarction and meteorological parameters in Kazakhstan (カザフスタンにおける急性心筋梗塞による入院と気象パラメータとの関連性)」が公衆衛生学学位プログラムの優秀発表賞を受賞しました。2023年10月には国際公共政策学位プログラムで学ぶ第5期 NipCA フェロー生8名も入学し、現在修士論文の執筆に専念しています。フェローシップ生たちの研究活動を支える目的で、SDGs 英語文献を購入し、NipCA プロジェクト SDGs 資料室の整備も行い、フェローたちが研究活動に利用しています。

本年度のプロジェクトは、コロナ禍で培ったオンラインのノウハウを活用することで、講演会や映画上映会では幅広い参加者を募ることに成功しました。今年で4回目の開催となる「新入生に贈るオンライン特別講演会」では、7月に講師としてカリフォルニア大学サンディエゴ校教授、當作靖彦氏をお招きし、「生成 AI 革命の時代を生き抜くために - 大学時代 何を学び、何をすべきか - 」と題する講演をしていただきました。1年目から続く公開講演会シリーズ「中央ユーラシアと日本の未来」も今年度は5月から2024年2月にかけて計9回開催し、講演会によって対面開催・オンライン開催・ハイブリッド開催を使い分け、多くの聴講者に参加していただきました。オンラインでは、5月から10月にかけて、トルクメニスタンのアザディ世界言語大学日本語学部の学生を対象とした特別講義「トルクメニスタンとの COIL 型大学教育推進プロジェクト」を計3回実施し、筑波大学のハイレベルな授業を現地学生に提供しました。10月には、オグズハン工科大学でも筑波大学教員によるオンライン特別講義を実施しました。2024年3月には、通算で6回目となるロシア・中央アジア映画上映会を開催して日本未公開のウズベキスタン映画を初上映し、400名を超える申し込みがあり、SDGs の理解促進と中央アジアの文化に親しむ機会を提供しました。

こうしたオンライン活動に加えて、本年度力を入れたのが対面での活動です。5月から2024年3月にかけては、学内の教職員を対象として、NipCA フェローが各自の出身国を英語で紹介する新たな試みを計6回開催し、多くの参加者に中央アジアについて知る場を設けました。また、9月には、前年度から引き続き、社会貢献活動の一環として、地元高校生を対象にした SDGs の英語講義を茨城県内の2つの高校で開催しました。10月には、JACAFA 日本研修プログラム(5名受入)を実施し、Japan Central Asia Exchange Forum 2023 を開催して、JACAFA フェローと本学の中央アジアからの留学生との交流を促進しました。その際、五十嵐立青つくば市長を表敬訪問し、懇談する機会を得ました。

対面での活動で特に力を入れたのが、研修活動です。国内研修では例年通り、7月に「日本企業インターンシップ I」、2024年2月に「中央ユーラシア SDGs 演習 I」を開講し、NipCA フェローが参加しました。さらに「日本企業インターンシップ II」を開講し、NipCA フェローに加え、CiC 協定校となっているアルファラビ・カザフ国立大学からの短期交換留学生25名が参加して飯田グループホールディングス株式会社を訪問し、企業が取り組むサステナビリティについての学びを深めました。海外研修も大幅に充実させることができました。8月から9月にかけては、キルギス共和国日本人材開発センターと協働して、夏季ロシア語研修「ロシア語1カ月スキルア

ップコース（キルギス共和国）」を開催し、日本人学生3名を派遣しました。2024年2月から3月にかけては、アルファラビ・カザフ国立大学を研修先として、ロシア語・カザフ語短期語学研修「海外語学研修（ロシア語C）」を実施し、日本人学生13名を派遣しました。また、2024年3月には、コロナ禍で実施できなかった「海外医療視察研修」を、アルファラビ・カザフ国立大学、アスタナ医科大学等を研修先として実施し、日本人学生4名を派遣しました。

こうした活動の中でも特筆すべきは、9月にSDGs国際会議を世界経済外交大学との共催でウズベキスタンのタシケントで開催し、本プロジェクト教職員4名が報告を行ったことです。同会議に参加した本学の永田恭介学長を団長とする代表団は、政府案件のためトルクメニスタンを訪問し、セルダール・ベルディムハメドフ大統領及びグルバングリ・ベルディムハメドフ国家指導者兼国民評議会議長とそれぞれ会談し、トルクメニスタン国立アザディ世界言語大学やオグズハン工科大学等の高等教育機関との連携・協力をとおした教育研究交流の発展に向けた協力を進めることを確認しました。この会談の様子は、現地のテレビやウェブニュースにて広く報道されました。なお、この代表団には、日本財団 森祐次常務理事と、沼田雅子 同財団職員が同行し、トルクメニスタン政府関係者と今後の交流について前向きに協議しました。また中村一貴 同財団職員はタシケントでのSDGs国際会議に参加しました。

NipCAプロジェクト5年目は、NipCAフェローで初めて学位（修士／公衆衛生学）取得者を輩出し、研修に参加した多くの日本人学生・中央アジア留学生をNipCAフレンドシップメンバーとして登録することで、同窓会ネットワークを構築し、年次計画の目標を達成し、前年度以上の十分な成果をあげることができました。

「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト (NipCA)」

令和5(2023)年度 活動計画および活動実績(2023.4~2024.3)

項目	活動計画	活動内容
NipCA プロジェクト継続 (2023年4月)	2023年4月から「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト (NipCA)」5年目を開始する。	公益財団法人日本財団から教育・研究助成を受け、2023年4月から「日本財団中央アジア・日本人材育成プロジェクト (NipCA)」5年目を開始した。
運営体制の維持・継続 (2023年4月~)	学位取得を目的とする正規留学生の受入業務という新しいミッションを持ったNipCAプロジェクトを軌道に乗せ、事業を安定的に推進し、本プロジェクト運営を確実なものにするために、前年度と同程度以上の教職員数の雇用を進める。	<p>① 本プログラム担当専任准教授 (SDGs 関連科目、インターンシップ科目等の教育業務、プロジェクト全体の企画・運営の推進等) を1名継続雇用した。</p> <p>② University International Administrator (NipCA プロジェクトコーディネーター、広報・企画・運営等担当) を1名継続雇用した。</p> <p>③ 非常勤研究員 (中央ユーラシア留学生学務・生活支援担当、中央ユーラシア海外研修・海外インターンシップ等国際交流実務支援担当、論文指導サポート担当) を3名 (うち1名は2023年6月30日退職済み)、非常勤事務職員 (会計・総務担当) を2名継続雇用した。</p>
広報活動 (2023年4月~)	本事業を学内外に広く広報するため、ニューズレター作成、およびウェブサイトやSNSでの広報活動を行う。	<p>① NipCA プロジェクトのウェブサイト、日本語・英語・ロシア語による情報発信を行う。</p> <p>【https://centralasia.jinsha.tsukuba.ac.jp/】</p>
公開講演会 「中央ユーラシアと日本の未来」 (2023年5月~)	本事業の広い意味での地域社会貢献と、NipCA プロジェクトのフェローシップのみならず、学内の教職員、学外の研究者・学生たちへの問題意識の喚起を促す目的で、中央ユーラシア地域と日本が抱える社会的な課題や地球規模的課題に係るテーマで、有識者による公開講演会を実施する。筑波大学SGU 事業の一環として実施。	<p>「日本財団中央アジア・日本人材育成プロジェクト」主催連続公開講演会「中央ユーラシアと日本の未来」をオンラインで開催。当日ライブ視聴できなかった視聴者のために、manaba にて2週間限定で講演動画を配信する。</p> <p>① 講師: 岩井 淳武 氏 (キルギス共和国日本人材開発センター 共同所長)</p> <p>テーマ: キルギスからの挑戦—カザフスタンやモンゴルと協力した高等教育分野での日本との交流促進の戦略、成果そして展望—</p> <p>開催日: 2023年5月12日 (金) 15:15~16:30</p> <p>会場: Zoom</p> <p>申込者数 128名 (参加者数 115名)</p>

		<p>② 講師：アンダソヴァ マラル 氏（早稲田大学高等研究所講師） テーマ：古代神話と中央アジアの伝承世界ーシャーマニズムの視点から見えてくるものー 開催日：2023年6月8日（木）17:00～18:15 会場：Zoom 申込者数 112名（参加者数 78名）</p> <p>③ 講師：福田 慧 氏（NHK 国際部ディレクター） テーマ：NHK World の舞台裏ーロシアのウクライナ侵攻後の変化ー 開催日：6月23日（金）13:45～15:00 会場：Zoom 申込者数 77名（参加者数 52名）</p> <p>④ 講師：前田 玉青 氏（日本学術振興会特別研究員 PD） テーマ：ドローンから探る馬の社会 開催日：11月13日（月）13:45-15:00 会場：Zoom 申込者数 103名（参加者数 71名）</p> <p>⑤ 講師：森 祐次 氏（日本財団常務理事） テーマ：人々の笑顔を求め36年ーそしてこれからも…ー 開催日：12月4日（月）15:15～16:30 会場：Zoom 申込者数 74名（参加者数 58名）</p> <p>⑥ 講師：キリンバエヴァ・ピビグル（カザフ国立大学） セイセバエヴァ・ライハン（カザフ国立大学） マウルシャリフ・ミラ（ナルホーズ大学） テーマ：1.Youth of Post independence Kazakhstan between the West and Asia 2. Perception of global and local identity by Kazakh youth: post-colonial discourse. 開催日：12月7日（木）10:10～11:25 会場：スチューデント・コモンズ 申込者数 16名（参加者数 18名）</p> <p>⑦ 講師：岩田 一成 氏（聖心女子大学）</p>
--	--	---

		<p>テーマ：道路標識にはなぜ平仮名がないのか？</p> <p>開催日：12月20日（水）17:00～18:15</p> <p>会場：Zoom</p> <p>申込者数 72 名（参加者数 44 名）</p> <p>⑧ 講師：岡戸 浩子 氏（名城大学）</p> <p>テーマ：地方自治体における多文化共生施策と多言語対応～愛知県豊田市の取組の動向から考える～</p> <p>開催日：1月26日（金）15:15～16:30</p> <p>会場：Zoom</p> <p>申込者数 84 名（参加者数 54 名）</p> <p>⑨ 講師：當作 靖彦 氏（カリフォルニア大学サンディエゴ校）</p> <p>テーマ：生成系 AI と大学教育の未来—自身の知的成長を止めないために—</p> <p>開催日：2月13日（金）10:10～11:25</p> <p>会場：スチューデント・コモンズ、Zoom</p> <p>申込者数 120 名</p> <p>（参加者数：91 名、オンライン参加者数 79 名・対面 12 名）</p>
日本・中央アジア友好財団（JACAFA 財団）総会 （2023 年 5 月）	NipCA プロジェクトとの連携機関である日本・中央アジア友好財団（JACAFA 財団）総会に出席し、今後の協力関係について確認する。	<p>開催日：2023 年 5 月 19 日（金）、20 日（土）</p> <p>会場：カザフスタン アルマトイ市 インターコンチネンタル</p> <p>出席者：ヴルボスキ 京子 氏（JACAFA 財団）、ヴルボスキ サソ氏（JACAFA 財団）、森 祐次 氏（日本財団 常務理事）、有川 孝 氏（日本財団 国際事業部 部長）、ハフマン ジェイムズ氏（日本財団 グローバルコミュニケーションチーム）、沼田 雅子 氏（日本財団 国際事業部 職員）、白山 利信 教授（筑波大学 人文社会系、NipCA プロジェクト実務責任者）、二ノ宮崇（カザフ国立大学 東洋学部極東学科 招聘教授、NipCA プロジェクト協力教員）</p>
日本財団会計監査 （2023 年 5 月）	NipCA プロジェクト 2021 年度の助成事業に対して、日本財団の会計監査を受ける。	<p>日時：2023 年 5 月 25 日（木）10:00～12:00</p> <p>場所：筑波大学 1C 棟 302 会議室</p> <p>出席者：仁平 正文（日本財団 監査部 調整役）、白山 利信（人文社会系 教授・NipCA プロジェクト実務責任者）、嶺 清人（人文社会エリア支援室長）、山口 和好（人文社会エリア支援室 主幹）、飯田 友紀（筑波大学 人文社会エリア支援室）、梶山祐治（NipCA プロジェクト コーディネーター）古徳あき子（NipCA プロジェクト 非常勤職員）、谷越 祥子（NipCA プロジェクト 非常勤職員）</p>
Borderless Onsite Meeting	国際局グローバル・コモンズとの共催で、奇数月の第 3 金曜日の昼	① 発表者：テメルハノフ・アルトゥル （第 4 期 NipCA フェロー）

<p>(2023年5月～)</p>	<p>休み時間を活用し、留学生と本学学生・教職員の英語による交流の場を設ける。NipCA フェローの出身国である、カザフスタン、キルギス、ウズベキスタン、タジキスタン、トルクメニスタン、アゼルバイジャンの6か国について、留学生に自国を紹介してもらい、参加者に中央アジアの国々に親しんでもらう機会を提供する。</p>	<p>テーマ：Natural Attraction of Kazakhstan 開催日：2023年5月19日（金）12:15～13:15 場所：スチューデント・コモンズ 参加者：34名</p> <p>② 発表者：スヴァノヴァ・ユルドゥズホン （第3期 NipCA フェロー） テーマ：Uzbekistan: History, people and culture 開催日：2023年7月21日（金）12:15～13:15 場所：スチューデント・コモンズ 参加者：30名</p> <p>③ 発表者：アイティムベトヴァ・アイダイ （第4期 NipCA フェロー） テーマ：Kyrgyzstan: Mirror of nomadic culture 開催日：2023年9月15日（金）12:15～13:15 場所：スチューデント・コモンズ 参加者：21名</p> <p>④ 発表者：ダブロノヴァ・ファランギス （第4期 NipCA フェロー） テーマ：Exploring Tajikistan's Persian heritage 開催日：2023年11月17日（金）12:15～13:15 場所：スチューデント・コモンズ 参加者：20名</p> <p>⑤ 発表者：ハサノヴァ・ナルギズ （第5期 NipCA フェロー） テーマ：Azerbaijan – the Land of Fire, and more- 開催日：2024年1月26日（金）12:15～13:15 場所：スチューデント・コモンズ 参加者：26名</p> <p>⑥ 発表者：ゲルディエヴァ・ミヴェゴゼル （第1期 NipCA フェロー） テーマ：Turkmenistan: A Journey through Culture and History 開催日：2024年3月15日（金）12:15～13:15 場所：スチューデント・コモンズ</p>
-------------------	---	--

		参加者：44名
トルクメニスタンとのCOIL型大学教育推進プロジェクト (2023年5月～)	筑波大学との全学協定校であるトルクメニスタン国立アザディ世界言語大学の日本語学科の学生を対象に、筑波大学の授業を提供する。	<p>① 講演者：白山 利信 氏（筑波大学 人文社会系 教授、NipCA プロジェクト実務責任者） テーマ：日本の地方自治体と「やさしい日本語」の普及・拡大 開催日：2023年5月26日（水）13:00～14:00 場所：Zoom</p> <p>② 講演者：奥 真裕 氏（筑波大学 人文社会系 特任研究員） テーマ：トルクメン語と日本語の比較対照 開催日：2023年6月27日（火）13:00～14:00 場所：Zoom</p> <p>③ 講演者：梶山 祐治 氏（筑波大学 UIA/NipCA コーディネーター） テーマ：＜映画館＞を通して知る日本の文化 開催日：2023年10月5日（木）13:00～14:00 場所：Zoom</p>
2023年度 新入生に贈るオンライン特別講演会 (2023年7月)	新入生のため、特別講演会をオンラインで開催する。	<p>新入生のため、今後のキャンパスライフへの活力と知的好奇心の向上に繋がられるような機会を提供する。主催は筑波大学 NipCA プロジェクトにより、グローバル・コモンズ、グローバルコミュニケーション教育センター、スーパーグローバル大学（SGU）事業推進室との共催、筑波大学学生部、国際室との協力で開催する。当日ライブ視聴できない学生のために、manabaにて2週間限定で講演動画を配信する。</p> <p>講師：當作 靖彦 氏（カリフォルニア大学サンディエゴ校 教授） テーマ：生成 AI 革命の時代を生き抜くために ー大学時代 何を学び、何をすべきかー 日時：令和5年7月6日（木）13:45～15:00 会場：Zoom 申込者数134（参加者数95名）</p>
日本企業インターンシップ I (北海道研修) (2023年7月)	人文社会科学研究群国際公共政策学位プログラム開設科目である「日本企業インターンシップ I」(1単位)の教育活動として、北海道研修を実施する。	<p>日時：2023年7月19日（水）～22日（土） 訪問先：ニセコ HANAZONO リゾート、Mountain Lights、北海道後志総合振興局、北海道庁、北海道大学総合博物館、倶知安町役場、北海道ニセコ高校、JA ようてい雪冷貯蔵庫、塚越産業ゴミ処理 参加者：第4期 NipCA フェロー7名 担当教員：人文社会系 白山 利信 教授、麗澤大学 山川 和彦、人文社会系 山本 祐規子 准教授</p>

<p>日本企業インターンシップ II (2023年8月)</p>	<p>人文社会科学研究群国際公共政策学位プログラム開設科目である「日本企業インターンシップ II」(1単位)の教育活動として、飯田グループホールディングス株式会社で研修を実施する。</p>	<p>日時：2023年8月22日(火)～23日(水) 訪問先：飯田グループホールディングス株式会社本社、ファーストウッド株式会社真岡工場 参加者：アルファラビ・カザフ国立大学からの短期交換留学生25名、第4期NipCAフェロー4名 担当教員：飯田グループホールディングス株式会社 兼井 雅史 代表取締役社長、ファーストウッド株式会社 大河 龍也 常務取締役、人文社会系 白山 利信 教授、人文社会系 山本 祐規子 准教授</p>
<p>海外語学研修 (ロシア語・キルギス語研修) (2023年8～9月)</p>	<p>学生への現地でのロシア語・キルギス語学習の機会を提供するため、キルギスへの研修を実施する。また、学生へのモチベーション付与を兼ねて、海外研修および留学報告会を開催する。</p>	<p>日時：2023年8月19日(土)～9月16日(土) 場所：キルギス国立総合大学、キルギス日本人材開発センター 参加者：角濱 さくら(人文・文化学群 人文学類2年)、高橋 舞(人文・文化学群 人文学類4年)、森 芽衣(生命環境学群 生物資源学類4年)</p>
<p>SDGs 国際学会主催 (2023年9月)</p>	<p>SDGsをテーマとする国際会議を、世界経済外交大学との共催で開催する、</p>	<p>会議名：Sustainable Development in Central Asia International Conference 日時：2023年9月4日(月) 共催：世界経済外交大学 場所：ウズベキスタン タシュケント 世界経済外交大学 発表者・/題目： 1. NipCAフェロー 指導教員 ダダバエフ・ティムール教授 “Between Coloniality and Indigenization: Two Polarities in Knowledge Generation in Central Asia” 2. NipCAフェロー 指導教員 塩谷 哲史准教授 “Diversion and Aral Sea Crisis” 3. NipCAプロジェクト担当教員 山本祐規子准教授 “Teaching SDGs in Higher Education Institution” 4. ソイポフ・ジャスル研究員 “The role of structural mediation actors and their effects on Uzbek trainees pre-departure and sojourn in Japan” 出席者：永田 恭介 学長、池田 潤 理事・副学長(国際担当)、白山 利信 教授、森 祐次 氏(日本財団 常務理事)、沼田 雅子 氏(日本財団 国際事業部 職員)</p>
<p>オグズハン工科大学 訪問第2期支援調印式 (2023年9月)</p>	<p>トルクメニスタンのオグズハン工科大学を訪問し、第2期支援に係る調印式を行う。</p>	<p>オグズハン工科大学訪問第2期支援調印式 日時：2023年9月5日(火) 訪問者：永田 恭介 学長、池田 潤 理事・副学長(国際担当)、白山 利信 人文社会系 教授、奥 真裕 人文社会系 特任研究員、森 祐次 氏(日本財団 常務理事)、沼田 雅子 氏(日本財団 国際事業部 職員)</p>

<p>第3期笹川フェロー修了式 (2023年9月)</p>	<p>大学院修士課程を修了する第3期 NipCA フェローが、第3期笹川 NipCA フェロー修了式に出席し、日本財団笹川陽平会長に対して、帰国前にお礼と感謝の言葉を述べる機会を設ける。</p>	<p>筑波大学大学院人文社会科学研究所国際地域研究専攻修士課程 Special Program in Japanese and Eurasian Studies(SPJES)を修了した第3期 NipCA フェロー6名、および現在同課程で勉強中の第4期 NipCA フェロー8名、同博士課程で勉強中の第1期 NipCA フェロー1名が日本財団笹川陽平会長を表敬訪問し、第3期 NipCA フェローには同会長より笹川 NipCA フェロー認定証が授与された。</p> <p>日時：2023年9月11日(月) 場所：日本財団ビル(東京都港区) 参加者：第1期 NipCA フェロー1名、第3期 NipCA フェロー6名、第4期 NipCA フェロー8名、NipCA プロジェクト教員・スタッフ5名</p>
<p>地元高校生を対象にしたSDGsの英語講義 (2023年9月)</p>	<p>筑波大学の社会貢献活動の一環として、地元の高校生を対象にSDGsに関する連続講義を英語にて行う。</p>	<p>① 日時：2023年9月12日(月) 場所：土浦日本大学高等学校 講師：人文社会系 山本 祐規子 准教授</p> <p>② 日時：2023年9月27日(水) 場所常総学院高等学校 講師：人文社会系 山本 祐規子 准教授</p>
<p>NipCA フェロースHIP生受入 (2023年10月)</p>	<p>筑波大学大学院人文社会科学研究所国際地域研究専攻の入試合格者である第5期 NipCA フェロースHIP生8名を受け入れる。</p>	<p>筑波大学大学院人文社会科学研究所国際公共政策学位プログラムに第5期 NipCA フェロースHIP生8名が入学した。</p>
<p>JACAFA 日本研修プログラム (2023年10月)</p>	<p>NipCA プロジェクトと JACAFA (日本・中央アジア友好財団) と連携・協力し、JACAFA 同窓生のための日本研修プログラムを実施する。プログラムの中に、本学 NipCA フェロースHIP生とのラウンドテーブルや、本学の研究施設等視察の機会を提供する。</p>	<p>開催日：2022年10月4日(水)～5日(木)</p> <p>① 日本研修 日時：10月4日(水) 10:30～12:00 訪問先：T-PIRC 農場事務室/遺伝子実験センター 参加者：JACAFA フェロー4名、ヴルボスキ 京子 氏 (JACAFA 会長)、ヴルボスキ サソ 氏 (JACAFA 副会長)、梶山 祐治 氏 (NipCA コーディネーター)</p> <p>② Japan Central Asia Exchange Forum 2023 日時：10月4日(水) 15:00～17:00 会場：筑波大学 総合研究棟 A 110 報告者・題目： 1. Asal Bazarova (NipCA Fellow 2021, University of Tsukuba) “The Experience of Aspiring Female Entrepreneurs with the Framework of Uzbekistan’s Policy (2019-2022)”</p>

		<p>2. Zamirbek Asirbaev (JACAFA Fellow, Kyrgyzstan) “Food Security in Central Asia”</p> <p>3. Doniyor Makhmudov (JACAFA Fellow, Uzbekistan) “Transformation of Youth Development Sphere in Uzbekistan”</p> <p>4. Hadyatulloi Azimzoda (JACAFA Fellow, Tajikistan) “Modern Hiring Approaches – A Way to Social Innovation”</p> <p>5. Bakbergen Ryskulov (JACAFA Fellow, Kyrgyzstan) “Using Machine Learning in Economic Research”</p> <p>6. Iskander Akylbayev (JACAFA Fellow, Kazakhstan) “How to prepare a Leader in 21st Century”</p> <p>③ つくば市長表敬訪問 場所：つくば市役所 5F 市長応接室 日時：10月5日（水）11:30～11:45 参加者：JACAFA フェロー5名、ウルボスキ 京子 JACAFA 会長、山本 祐規子（人文社会系准教授）</p>
第5回運営委員会 （2023年11月）	Ge-NIS+ 「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト（NipCA）」 「ロシア・日本人材育成プロジェクト」 令和5年度第5回プロジェクト運営委員会を開催し、本プロジェクトの承認を受ける。	<p>日時：2023年11月2日（火）13:30～14:30</p> <p>会場：Zoom</p> <p>運営委員会委員長：加藤 光保 副学長（教育担当）・理事・グローバル教育院長、運営委員会副委員長：池田 潤 副学長（国際担当）・理事、運営委員会副委員長：原 晃 副学長（医療担当）・理事・附属病院長</p>
中央ユーラシア SDGs 演習 I （沖縄研修） （2024年2月）	人文社会科学研究群国際公共政策学位プログラム開設科目である「中央ユーラシア SDGs 演習 I」（1単位）の教育活動として、沖縄研修を実施する。	<p>日時：2024年2月7日（水）～10日（土）</p> <p>訪問先：八重山高等学校、竹富島・環境庁国際サンゴ礁研究モニタリングセンター、八重山商工高校</p> <p>参加者：第5期 NipCA フェロー8名</p> <p>担当教員：人文社会系 白山 利信 教授、麗澤大学 山川 和彦、人文社会系 山本 祐規子 准教授</p>
第5回外部評価委員会 （2024年2月）	Ge-NIS プログラムでの外部評価の経験を踏まえて、外部評価委員会が本プロジェクトの実施状況を評価するとともに、同委員会と本プロジェクト実務者が改善に向けた協議を行う。	<p>日時：2024年2月13日（火）14:00～16:00</p> <p>外部評価委員：當作 靖彦 氏（カリフォルニア大学サンディエゴ校教授）、小野澤 正喜 氏（育英短期大学 教授）、広沢 正行 氏（国際協力機構 東・中央アジア部長）市場 裕昭 氏（外務省欧州局 中央アジア・コーカサス室 室長）、岸田 和克子 氏（つくば市長公室 国際都市推進課長）</p> <p>会場：筑波大学 人文社会系棟 A 316</p>
海外語学研修 （ロシア語・カザフ	学生への現地でのロシア語・カザフ語学習の機会を提供するため、	<p>日時：2024年2月16日（金）～3月23日（土）</p> <p>場所：アルファラビ・カザフ国立大学（カザフスタン共和国アルマ</p>

<p>語研修) (2024年2月～3月)</p>	<p>カザフスタンへの研修を実施する。また、学生へのモチベーション付与を兼ねて、海外研修および留学報告会を開催する。</p>	<p>トイ市) 参加者：新川 朝日(総合学域群 第1類 1年)、高橋 蓮(人文・文化学群 人文学類 1年)、野村 ルイナ(人文・文化学群 人文学類 1年)、渡部 孝紀(生命環境学群 生物学類 1年)、樋口 凜り子(社会・国際学群 国際総合学類 2年)、遠藤 拓馬(社会・国際学群 国際総合学類 2年)、岡本 みもり(社会・国際学群 国際総合学類 2年)、富田 明日紀(人文・文化学群 比較文化学類 2年)、角濱 さくら(人文・文化学群 人文学類 2年)、藁谷 そら(社会・国際学群 社会学類 3年)、万代 晴香(人文・文化学群 人文学類 3年)、柴田 葵(理工学群 社会工学学類 3年)、藤原 健人(人文・文化学群 人文学類 4年)</p>
<p>海外医療視察研修 (2024年3月)</p>	<p>医学群の学生を対象に、医学医療視察研修を実施し、カザフスタン(アスタナ・アルマトイ)の医科大学や医療機関、研究機関などを訪問する。</p>	<p>日時：2024年3月10日(日)～3月19日(火) 場所：アルファラビ・カザフ国立大学医学部・薬学部、アスフェンディヤーロフ・カザフ国立医科大学、アスタナ医科大学、小児リハビリセンターなど診療現場や薬局 参加者：結城 舞(医学群 医学類 2年)、田崎 彩名(医学群看護学類 2年)、鈴木 萌楓(医学群 医学類 3年)、熊倉 緑里(医学群 医療科学類 2年)</p>
<p>第4期笹川フェロー修了式 (2024年3月)</p>	<p>大学院修士課程を修了する第4期NipCA フェローが、第4期笹川NipCA フェロー修了式に出席し、日本財団 森 祐次 常務理事に対して、帰国前にお礼と感謝の言葉を述べる機会を設ける。</p>	<p>筑波大学大学院人文社会科学研究科国際地域研究専攻修士課程 Special Program in Japanese and Eurasian Studies(SPJES)を修了した第4期NipCA フェロー7名、および現在同課程で勉強中の第5期NipCA フェロー8名が日本財団 森 祐次 常務理事を表敬訪問し、第4期NipCA フェローには同常務理事より笹川 NipCA フェロー認定証が授与された。 日時：2023年3月18日(月) 場所：日本財団ビル(東京都港区) 参加者：第4期NipCA フェロー7名、第5期NipCA フェロー8名、NipCA プロジェクト教員・スタッフ6名</p>
<p>NipCA プロジェクト主催「ロシア・中央アジア映画上映会」(2024年3月)</p>	<p>SDGs の理解促進と中央アジアの文化紹介を兼ねて、ロシア・中央アジアの未公開作品に字幕を付けて日本初上映し、解説も行う。</p>	<p>上映作品：ヨルダシ・アグザモフ『きみに夢中』(1958年、79分) 日時：2024年3月22日(金) 19:15～20:00 作品解説：梶山 祐治 UIA(NipCA プロジェクト コーディネーター) 「〈発見〉されるウズベキスタンの歌と踊り」 会場：Zoom 20:00～21:50 会場：Vimeo 申込者数415名(参加者数335名)</p>

資料1 NipCA フェローシップ生リスト

人文社会科学研究所 国際地域研究専攻（修士課程）
Special Program in Japanese and Central Eurasian Studies

令和元（2019）年度 10 月入学者

「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト(NipCA)」

第1期生 日本財団中央アジアフェローシップ 6名

	氏名	国籍	研究テーマ	修士論文題目	就職先
1	BOTEU Saltanat ボテウ・サルタナート	カザフスタン	Environmental sustainability practices in Japan, its cultural aspects and applicability	Environmentally Friendly Consumption from the Perspective Environmental Entrepreneurs in Kazakhstan	UNDP local office in Kazakhstan, Nursultan, in the communications department as a Communications and Social Media Specialist. Assigned to the UNDP as a UN National Volunteer Specialist.
2	GELDIYEVA Mivegozel ゲルディエヴァ・ミヴェゴゼル	トルクメニスタン	Energy security issues in Central Asia	The Emerging Role of Universities in International Relations: A Case Study of the University of Tsukuba	筑波大学大学院 人文社会科学研究所 博士課程
3	MURATBEKOVA Aigerim ムラトベコヴァ・アイゲリム	キルギス	Bullying among children in Japanese schools	Exploring the Causes of School Bullying in Kyrgyzstan and Prevention Measures Through Policy and Actor Perspectives	Campus Staff, Every Nation Every Nation Churches & Ministries
4	QAMBAROVA Nilufar カムバロヴァ・ニルファール	タジキスタン	Freedom and Constraints of the Press in Tajikistan	Understanding Gender Roles of Ismaili Pamiri Women in a Traditional Society	Human Centered Design Officer, Local Impact Project, Aga Khan Foundation
5	ALIYEVA Tubu アリエヴァ・トゥブ	アゼルバイジャン	A comparative study between Azerbaijan and Japan in order to investigate the role of tourism in economic and environmental sustainability of newly formed states	The Development of Socially Sustainable Urban Tourism in Baku: Exploring Residents' Attitudes	ESP Support Operator/Customer Care SDZ Technologies and Services
6	ZAKARYANOV Ilyas ザカリヤノフ・イリヤス	カザフスタン	Sustainable development of East Kazakhstan in conditions of regional inequality of the country	Agritourism's Contribution to Sustainable Development in Rural Areas of the Republic of Kazakhstan: A Case Study of the East Kazakhstan Region	Fihugie financial holding

人文社会科学部 国際地域研究専攻（修士課程）
Special Program in Japanese and Central Eurasian Studies

令和2（2020）年度10月入学者

「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト(NipCA)」

第2期生 日本財団中央アジアフェローシップ 7名

	氏名	国籍	修士論文題目	就職先
1	ABDULLAYEV Ramil アブドゥラエフ・ ラミル	アゼル バイジャン	Inclusive Education in State Universities in Azerbaijan: Current Status and Challenges	MOFA Azerbaijan
2	MUKHAMEJANOVA Aizhan ムハメジャノヴァ・ アイジャン	カザフスタン	The Experience of Female Repatriation in Kazakhstan: A Case Study of the Mangystau Region	Research Assistant, Nazarbayev University
3	NURLAN kyzy Aliia ヌルラン・キジ・ アリヤ	キルギス	Women in Kyrgyz Parliament: The Role of Quota System in Gender Equality	Business manager, OVOP (One Village One Product)
4	OSMONOVA Gulzada オスモノヴァ・グルザダ	キルギス	The Perceptions of Child Labor and Its Reasons: A Case of Batken Region, Kyrgyzstan	Project Manager, KOPIA Center (Korea Partnership for Innovation of Agriculture)
5	OSPANOVA Sofya オspanoヴァ・ソフィヤ	カザフスタン	Organizational Transformation of the Kazakhstan-Japan Center for Human Development	A mobile developer, Flutter
6	RAJABOVA Manizha ラジャボヴァ・マニジャ	タジキスタン	From Brain Drain to Brain Gain: Motivations of Tajik Students to Return Home	Delegation of the European Union to Tajikistan
7	SUIUNBEKOVA Saikal スイウンベコヴァ・ サイカル	キルギス	The Impact of JICA's "One Village One Product" Project on the Contribution of Females to Household Income in the Issyk-Kul Region, Kyrgyzstan	OVOP (One Village One Product)

人文社会科学研究群 国際公共政策学位プログラム（修士課程）
Special Program in Japanese and Central Eurasian Studies

令和3（2021）年度10月入学者

「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト(NipCA)」

第3期生 日本財団中央アジアフェローシップ 6名

	氏名	国籍	修士論文題目	就職先
1	BAZAROVA Asal バザロヴァ・アサル	ウズベキスタン	Women's Entrepreneurial Experiences and the Roles of the Women's Entrepreneurship Center in Tashkent (WECT) in Creating Opportunities in Uzbekistan	就職活動中
2	MALAKBOZOVA Munira マラクボゾヴァ・ムニラ	タジキスタン	Work Transition and Employability of Students: Insights from Recent Graduates and Employers from 2020-2022 in Tajikistan	Back Office Administrator, GlobeTel Japan
3	NYUSSUPOV Assylzhan ニユスポフ・アシルジャン	カザフスタン	From Advocacy to Legislation: A Comprehensive Investigation of Civil Society's Role in Shaping Cyberbullying Law in Kazakhstan"	Software Engineer, Wildberries
4	MAVLONOVA Maftunakhon マヴロノヴァ・マフトゥナホン	ウズベキスタン	Women in STEM in Uzbekistan: Understanding their decision to pursue STEM and their perception of its promotion	就職活動中
5	SMANOVA Nargiza スマノヴァ・ナルギザ	カザフスタン	Legal and Social Elements of Police Response to Domestic Violence Against Women in Kazakhstan	Leading Manager, Kazakhstan Institute of Public Development
6	SUVANOVA Yulduzkhon スヴァノヴァ・ユルドゥズホン	ウズベキスタン	Beyond Binaries: Discursive Strategies in Identity (Re-)Construction of Uzbek Women	TBC Bank

医学医療系 公衆衛生学学位プログラム（修士課程）
Special Program in Japanese and Central Eurasian Studies

令和4（2022）年度4月入学者

「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト(NipCA)」

第4期生 日本財団中央アジアフェローシップ 1名

	氏名	国籍	修士論文題目	指導教員
1	BADIYEVA Aizada バディエヴァ・アイザダ	カザフスタン	Association between hospital admissions due to acute myocardial infarction and meteorological parameters in Kazakhstan	我妻ゆき子

人文社会科学研究群 国際公共政策学位プログラム（修士課程）

Special Program in Japanese and Central Eurasian Studies

令和4（2022）年度10月入学者

「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト(NipCA)」

第4期生 日本財団中央アジアフェローシップ 7名

	氏名	国籍	修士論文題目	指導教員
1	AITIMBETOVA Aidai アイティムベトヴァ・アイダイ	キルギス	Brain Drain in Kyrgyzstan: Why are Foreign University Degree Holders Leave the Kyrgyzstan Again?	山本祐規子
2	TEMERKHANOV Artru テメルカーノフ・アルトゥル	カザフスタン	Criminalization of Street Harassment: Analysis of Legal Frameworks in Central Asia	ダダバエフ・ティムール
3	BEKBOSSYNOVA Aruzhan ベクボシノヴァ・アルジャン	カザフスタン	The Creative Economy of Kazakhstan: An Exploration of Opportunities and Challenges of Creative Entrepreneurship	山本祐規子
4	ALTYNBEK KYZY Cholpon アルチンベク・キジ・チョルボン	ウズベキスタン	C Investigative Journalism in the Kyrgyz Republic: Insights from Investigative Journalists and Activists-bloggers	タック川崎 レスリー
5	SAMATOVA Nodira サマトヴァ・ノディラ	ウズベキスタン	Exploring the Relevance of Teacher's Digital Competence to Learning: Perspectives of Teachers and Students	ダダバエフ・ティムール
6	DAVRONOVA Farangis ダヴロノヴァ・ファランギス	タジキスタン	Digital Activism in Tajikistan: Gender Advocacy of Youth on Social Media	ダダバエフ・ティムール
7	BERKINOV Jakhongir ベルキノフ・ジャホンギル	ウズベキスタン	Digital Transformation of Local Government in Uzbekistan: A Case Study of Tashkent City Municipalities	タック川崎 レスリー

人文社会科学研究群 国際公共政策学位プログラム（修士課程）
Special Program in Japanese and Central Eurasian Studies

令和5（2023）年度10月入学者

「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト(NipCA)」

第5期生 日本財団中央アジアフェローシップ 8名

	氏名	国籍	研究テーマ	指導教員
1	BAIKURMANOV Bauyrzhan バイクルマノフ・ パウイルジャン	カザフスタン	Migration of Young People to Rural Regions of Kazakhstan on the Basis of the Program “WITH A DIPLOMA TO THE VILLAGE”	タック川崎レスリー
2	MIRAKILOVA Fatima ミラキロヴァ・ ファティマ	ウズベキスタン	Female Leadership in Higher Education Institution in Uzbekistan; Barriers and the Opportunities	山本祐規子
3	ISKANDAROVA Feruzha イस्कандロヴァ・ フェルザ	ウズベキスタン	The problems of transparency in the civil service employment process in Uzbekistan	ダダバエフ・ティムール
4	HASANOVA Nargiz ハサノヴァ・ナルギズ	アゼル バイジャン	Utilizing National Summative Evaluation Tests	山本祐規子
5	UZBEKOV Kuanysh ウズベコフ・クアニシ	カザフスタン	Role of Media in Disseminating Anti-Protest Narratives: Kazakhstan’s “Qandy Qantar” case study	タック川崎レスリー
6	RAKHIMOV Mansurbek ラヒモフ・マンスルベク	ウズベキスタン	The Impact of Legislative Changes on Freedom of Expression and the Policy of Openness in Uzbekistan	ダダバエフ・ティムール
7	ABDULLAEV Shokhrukh アブドゥラエフ・ ショフルフ	ウズベキスタン	Burning the midnight oil: why do government workers in Uzbekistan agree to overtime work?	タック川崎レスリー
8	TURSYNALIEVA Azhar トゥルスナリエヴァ・ アジャル	カザフスタン	Water Users’ Associations’ role in Kazakhstan’s water management policy: case study Kazakhstan Su Amasy	ダダバエフ・ティムール

資料2 令和5(2023)年度 プロジェクト運営委員会委員リスト

敬称略

	役割等	氏名	所属・役職
1	委員長	加藤 光保	副学長（教育担当）・理事・グローバル教育院長
2	副委員長	池田 潤	副学長（国際担当）・理事
3	副委員長	原 晃	副学長（医療担当）・理事・附属病院長
4	委員	関根 久雄	大学執行役員・人文社会系長
5	委員	川上 康	大学執行役員・医学医療系長
6	委員	西保 岳	大学執行役員・体育系長
7	委員	井田 仁康	大学執行役員・人間系長
8	委員	大根田 修	大学執行役員・国際局長
9	委員	坪内 孝司	大学執行役員・教学デザイン室長
10	委員	櫻井 岳暁	国際室長
11	委員	関 瑞穂	国際局調整役
12	委員	八田 弘	教育推進部長
13	委員	中澤 秋夫	学生部長
14	委員	平松 祐司	附属病院副病院長・同院国際医療センター部長・医学医療系教授
15	委員	竹中 佳彦	学長補佐室長・人文社会ビジネス科学学術院長

16	委員	杉本 武	人文社会科学研究群長
17	委員	大淵 真喜子	ビジネス科学研究群長
18	委員	大倉 浩	人文・文化学群長
19	委員	土井 隆義	社会・国際学群長
20	委員	樋口 直宏	人間学群長
21	委員	木塚 朝博	体育専門学群長
22	委員	田中 誠	医学群長
23	委員	武井 陽介	医学類長
24	委員	我妻 ゆき子	公衆衛生学学位プログラムリーダー・ 医学医療系教授
25	委員	田宮 菜奈子	ヘルスサービス開発研究センター長・ 医学医療系教授
26	委員	臼山 利信	本プロジェクト実務責任者・国際公共政策学位 プログラムリーダー・人文社会系教授
27	委員	小野 正樹	本プロジェクト実務副責任者・CEGLOC 長・ 人文社会系教授
28	委員	加藤 百合	本プロジェクト実務副責任者・人文社会系教授
29	委員	ダダバエフ ティムール	本プロジェクト協力教員・人文社会系教授
30	委員	市川 政雄	本プロジェクト協力教員・医学医療系教授
31	委員	田村 洋貴	教育推進部教育推進課長
32	委員	関本 啓子	国際局国際室担当課長
33	委員	高橋 浩一	国際局グローバル・コモンズ担当課長

34	委員	五十嵐 千恵子	学生部学生交流課長
35	委員	嶺 清人	人文社会エリア支援室長
36	委員	山口 剛	医学医療エリア支援室長

資料3 令和5(2023)年度 外部評価委員会委員リスト

敬称略

	役職等	氏名	所属・役職
1	委員長	當作 靖彦	カリフォルニア大学サンディエゴ校教授
2	副委員長	小野澤 正喜	育英短期大学理事・名誉教授
3	委員	広沢 正行	独立行政法人国際協力機構（JICA） 東・中央アジア部長
4	委員	市場 裕昭	外務省欧州局中央アジア・コーカサス室長
5	委員	岸田 和克子	つくば市長公室国際都市推進課長

資料4 令和5(2023)年度 プロジェクト・スタッフリスト

敬称略

運営体制	氏名	職位・役職	役割
プロジェクト 実務責任者	白山 利信	人文社会系教授	全体統括
プロジェクト 実務副責任者	小野 正樹	人文社会系教授	全体統括補佐
プロジェクト 実務副責任者	加藤 百合	人文社会系教授	全体統括補佐
プロジェクト担当教員	山本 祐規子	人文社会系准教授	プロジェクト推進業務 担当
プロジェクト コーディネーター	梶山 祐治	インターナショナル・ アドミニストレーター	運営・企画・広報等 担当
実務スタッフ ※2023年6月30日退職済み	グロマリエフ シラリ	非常勤研究員	留学生サポート担当
実務スタッフ	徳田 由佳子	非常勤研究員	留学生受入・派遣担当
実務スタッフ	インセバイエヴァ ナフィーサ	非常勤研究員	論文指導サポート担当
実務スタッフ	ソイポフ ジャスル	非常勤研究員	新規プロジェクト担当
支援スタッフ ※2023年9月30日退職済み	古徳 あき子	非常勤職員	会計担当
支援スタッフ	谷越 祥子	非常勤職員	総務担当
支援スタッフ	生永 妙子	非常勤職員	広報担当

令和5年度(2023.4～2024.3)
日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト (NipCAプロジェクト)
Nippon-Foundation Central Asia-Japan Human Resource Development Project
事業報告書

2024年6月10日発行

監 修 臼山 利信
編集・校正 梶山 祐治 (主担当)、山本 祐規子、宗野 ふもと、谷越 祥子、
徳田 由佳子、生永 妙子
発 行 者 臼山 利信
発 行 所 筑波大学「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト (NipCA)」
茨城県つくば市天王台 1-1-1
Tel: 029-853-4251
E-mail: info@genis.jinsha.tsukuba.ac.jp
Web: <https://centralasia.jinsha.tsukuba.ac.jp/>
印刷・製本 メディア情報株式会社



日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト
(NipCA Project)
〒305-8571 茨城県つくば市天王台 1-1-1 筑波大学
Tel. 029-853-4251
E-mail: info@genis.jinsha.tsukuba.ac.jp
Web: <https://centralasia.jinsha.tsukuba.ac.jp>